

JSET

JAPAN SOCIETY FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

No.150
2007-05-09

日本教育工学会ニューズレター

事務局：〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル
電話 / FAX : 03-5740-9505 e-mail : office@jset.gr.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp/

ISSN 1340-9913

第23回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ（第二報）

第23回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予約ください。

記

1. 日時 2007年6月16日（土）
10:00～12:00 シンポジウム1
12:00～13:00 総会
総会終了後 理事・評議員会
14:00～16:00 シンポジウム2
2. 会場 東京工業大学 西9号館デジタル多目的ホール
東京都目黒区大岡山2-12-1
(東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩1分)
3. 総会の議事
 - 1) 第1号議案 2006年度(2006.4.1-2007.3.31)事業報告および収支決算承認の件
 - 2) 第2号議案 2007年度(2007.4.1-2008.3.31)事業計画案および収支予算案承認の件
 - 3) 第3号議案 会長, 理事, 監事, 評議員の選任の件

なお、第23回全国大会は9月22日（土）～24日（月/休日）の3日間、早稲田大学人間科学部で開催します。

本号目次

第23回通常総会とシンポジウム開催のお知らせ (第二報) --- 1	産学協同セミナーの報告----- 14
6月シンポジウムの開催について----- 2	夏の合宿研究会のお知らせ(第一報) ----- 14
第23回全国大会のお知らせ(第二報) ----- 3	第11期第15回理事会議事録----- 15
研究会の開催案内/発表募集/報告----- 11	新入会員/学会日誌/国際会議案内等----- 16
日本質的心理学会研究交流委員会と企画委員会との共 催セミナーの報告----- 13	

6月シンポジウムの開催について

日本教育工学会 2007 年度の 6 月シンポジウムを、以下のように、学会総会の前後に行います。午前中は主として学会員を対象とし、「高等教育における教育実践の成果をどのように共有し活用するか」と題したシンポジウムを、また午後は公開シンポジウムとして、「新しい教育課題に教育工学は何ができるかー現代的問題に挑むー」と題し、開催致します。

日時：2007 年 6 月 16 日（土） 10:00-16:00

会場：東京工業大学 大岡山キャンパス 西 9 号館 デジタル多目的ホール

東京都目黒区大岡山 2-12-1（東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩 1 分）

URL <http://www.titech.ac.jp/>

参加：参加希望者は、当日受付にて直接お申し込み下さい。

（参加費として資料代 500 円をいただきます。開始 30 分前より受付を行っております。）

午前の部：10:00-12:00 シンポジウム 1（主として学会員向け。ただし非会員の方の参加も可能）

テーマ 「高等教育における教育実践の成果をどのように共有し活用するか」

■ねらい

近年、文部科学省によって、特色 GP、現代 GP、教員養成 GP など大学教育改革への支援が進み、特色ある教育実践成果が蓄積され、教育実践研究は高等教育へも大きな広がりを見せています。日本教育工学会では、それらの実践知を有効に活用するために、得られた個々の研究成果を体系化し、再び教育実践の現場に還元していく仕組みを検討することが必要です。そこで本シンポジウムでは、様々な分野の教育実践研究者をお迎えし、成果を共有し活用していくために、学会として果たしていく役割や方法論について議論します。

午後の部：14:00-16:00 シンポジウム 2（会員及び一般参加者向け）

テーマ 「新しい教育課題に教育工学は何ができるかー現代的問題に挑むー」

■ねらい

昨年 12 月に教育基本法が改正され、今年 1 月には教育再生会議から第一次報告が出されました。この改正や報告書の内容、方向性については、様々な意見があるかと思いますが、その背景には、現在の教育が様々な問題を抱えている現実があります。学力低下、いじめ、授業の不成立、不登校、教育格差、運動能力の低下など枚挙にいとまがありません。本シンポジウムでは、これらの現代の教育が抱える問題に正面から取り組んで実践している方をお招きし、学会が学校教育現場と連携・協力を図りつつこれらの問題にどう対処していけるかについて議論します。

皆様のご参加をお待ちしております。なお、登壇者等の詳細は今後ホームページに随時掲載していく予定です。一部変更されることもありますことをご了解下さい。

日本教育工学会 第23回全国大会のお知らせ(第二報)

日本教育工学会第23回全国大会を、下記のように早稲田大学(所沢キャンパス)において開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。今大会では、一般研究発表にてポスター発表ができますので、これに奮ってご応募ください。

1. 開催期日・会場

期日：2007年9月22日(金)～24日(日) (3日間)

会場：早稲田大学人間科学部(所沢キャンパス) *西早稲田キャンパスではありません。

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15

西武池袋線小手指(こてさし)駅よりバス15分

(小手指駅南口ロータリーより直行バスを運行する予定、片道150円。なお、午前8時台は北口ロータリーから発車します。)

<http://www.human-waseda.jp/about/access.html>

2. 大会日程

第1日 9月22日(土)	第2日 9月23日(日)	第3日 9月24日(月)
9:30～10:00 受付	9:00～9:30 受付	9:00～9:30 受付
10:00～12:00 一般研究発表1	9:30～12:30 一般研究発表3	9:30～12:30 一般研究発表4
12:00～13:30 昼食	12:30～14:00 昼食・理事会	12:30～13:30 昼食・
13:30～15:30 シンポジウム1	14:00～14:30 全体会	大会企画委員会
15:40～18:20 一般研究発表2	14:30～17:15 シンポジウム2	13:30～16:00 課題研究発表
	17:15～17:45 移動	
	17:45～19:45 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が大会開催期間中終日催されます。ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰があります。

3. 各セッションについて

(1) シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム1

シンポジウム1A e-Learningが変える高等教育システムー伝統的学部・大学院教育の改変：研究・教育そして人材育成ー

コーディネータ(五十音順、以下同様)：野嶋栄一郎、松居辰則(以上早稲田大学)

司会：松居辰則(早稲田大学)

登壇者：野嶋栄一郎(早稲田大学)、不破泰(信州大学)、他3名程度(交渉中)

高等教育機関でのe-Learningの活用は一般的になりつつある。そのアイデアや成果は現代GP、特色GP等の支援プログラム、および関連学協会を通して広く報告されている。その多くは基礎教育、語学教育、

専門教育等の学習環境基盤としての e-Learning である。つまり、従来型の学部教育や大学院教育の実施を前提としてそれを補完することや学習の機会を拡大することが中心的な目的となっている。しかしながら、e-Learning を導入することの本来的な目的は学生の学力や質の向上は言うまでもなく、教員の教育・研究に対する意識改革、授業スキルの向上、組織の発展的改変、ひいては学部や大学院の組織基盤として機能させることにある。これを実現するためには、従来型の学部・大学院教育においてどのような e-Learning のモデルを構築すればよいのか、そしてそれを実効性の高いものとならしめるためには、どのような組織構成を考えればよいのか。ここでは、高等教育機関の教育目的の中に「人材育成」を取り入れることが鍵となる。本シンポジウムではこのような意識のもので e-Learning を導入している組織の関係者を招き議論を行う。

シンポジウム 1B 実践研究をどのようにデザインし、論文にまとめるか

コーディネータ：木原俊行（大阪市立大学），清水康敬（メディア教育開発センター）

報告者：益子典文（岐阜大学），山内祐平（東京大学）

コメンテーター：植野真臣（電気通信大学），鈴木克明（熊本大学），矢野米雄（徳島大学）

本シンポジウムは、大会企画委員会と編集委員会が連携して、企画・運営するものである。日本教育工学会において、実践研究は重要な研究分野の 1 つであり、「日本教育工学会論文誌」の投稿表にこのカテゴリーを設けて投稿を推奨している。しかし、教育実践をつかさどる要因が複雑であるため、研究のデザインや実施の折に、そして研究の結果得られた知見を論文としてまとめる際に、少なからぬ困難に遭遇すると思われる。また、研究の企画遂行における倫理的問題への対処等についても、配慮すべき事項が多い。

そこで本シンポジウムでは、2 つの実践研究事例を対象にして、本学会における実践研究のデザインや報告等について、その基本的な考え方や求められる要件について討論したい。

シンポジウム 2 教育工学研究に望まれる方法論—実践・政策・市場原理を踏まえたデザイナー

コーディネータ：山西潤一（富山大学）

基調講演者：赤堀侃司（東京工業大学）

パネリスト： 授業実践の立場から：前田康裕（熊本市立飽田東小学校）

教育産業からの期待：黒川弘一（光村図書出版株式会社）

システム開発の立場から：香山瑞恵（信州大学）

他学会からの期待：佐伯 胖（青山学院大学）

教育行政の立場から：堀田龍也（メディア教育開発センター）

教育工学は、学校、行政、企業などと連携を保ちながら研究を進めている。しかし、実践と研究、政策と研究、市場原理と研究は、それぞれ目的意識が異なる。

教育工学会の重点施策をふまえて、さまざまな実践研究の知見をどう共通の学問的知識として共有化するか、さまざまなコンフリクトが存在するなかで、それぞれの立場を超えてどのように協調・協業の成果を生み出していくか、人、組織、マネジメントサイクルなどの観点から討議する。

(2) 課題研究

「日本教育工学会が取り組むべき重点研究内容」の提言を踏まえながら、以下のような 8 件のテーマを設定することになりました。

なお、課題研究はその課題について十分に討論することを目的としていますので、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加していただくことが発表者に求められます。この点、ご留意ください。なお、課題研究のセッションは最終日の 13:30-16:00 を予定しています。

1. 新しい ICT 技術・教育システムの開発に関する研究

■K-1 モバイル・ユビキタス技術の教育利用

コーディネータ：中原 淳（東京大学），林 敏浩（香川大学）

近年、様々なモバイルデバイスの教育利用が進んでいる。NINTENDO DS や PSP を活用した e-Learning 補習システムや、携帯電話を活用した授業支援システム、展示支援ガイドなど、その事例は枚挙に暇がない。また、センシング技術を活用したユビキタス学習環境についても、実用化の段階に進んできている。特に、最近では、教室環境やワークショップスペースの設計に焦点を当てた「ラーニングスペースリサーチ」という概念も登場してきている。本セッションでは、モバイル・ユビキタス技術の教育利用に関係する、幅広い研究発表を募集する。また、教育利用を前提としたモバイル・ユビキタス技術の提案・開発に関する研究発表も歓迎する。

■K-2 学習方略フィードバックのための学習コンテンツの構成と学習データの利用

コーディネータ：松居辰則（早稲田大学），室田真男（東京工業大学）

ICT を利用した、特に Web 型の学習支援システム（広義の e-Learning）では、学習方略に関するフィードバック（学習内容の個別適応化、学習評価など）をいかに行うかが重要なポイントとなる。本課題研究では、それを実現するための、学習コンテンツの構成法、インデックスの作成や付与方法（自動化技術も含めて）、学習評価のための各種データの利用方法と可視化、その理論、技術、実践など、e-Learning において学習方略をどのように捉え、どのようにフィードバックするのかについて議論し、問題点と課題を共有したい。e-Learning においては、その全てを自動化するのではなく、人間教師の関わりが重要であることは言うまでもないが、その人間教師の営みや意思決定のための強力なツールを提供することは、結果として e-Learning の質を向上させることにつながる。従って、e-Learning における人間教師との関わりまで言及したいと考えている。

■K-3 ICT 技術・教育システムの評価の視点と方法

コーディネータ：池田 満（北陸先端科学技術大学院大学），中山 実（東京工業大学），
平嶋 宗（広島大学）

ICT を基盤とした新しい教育・学習のあり方を提案していくことは、教育工学における重要な課題の一つであるといえ、数多くの研究が行われている。しかしながら、提案された新しい形態の教育・学習をどのように評価するべきかは、必ずしも明らかではない。教育・学習の目標を何らかの測定によって評価することが最終的には必要であることに合意できたとしても、どのように評価するか自体が大きな課題である。また、新しい技術あるいはデザインを生み出そうという立場からすると、限られた評価手法によって教育・学習における効果を測定することは、必ずしも妥当とはいえない。本課題研究では、このような問題意識を踏まえたうえで、どのような視点から、どのような評価を試みたのか、またなぜそのような視点および評価が妥当と考えるのかといった「評価の視点と方法」に関する報告を募集する。さらにこれらの報告を題材とした討論の場を設ける予定である。

2. 高度で効果的な教育方法の開発と普及に関する研究

■K-4 教科指導における ICT 活用の効果分析とそれに基づく授業デザインの研究

コーディネータ：小泉カキ（尚美学園大学），高橋 純（富山大学）

国は文部科学省を中心として初等中等教育の情報化を推進している。2006 年 1 月に示された「IT 新改革戦略」では、「教科指導における IT の活用」を推進するために「教科指導における学力の向上等のための IT を活用した教育を充実させる」ということが示されている。授業に ICT を活用して児童生徒の学力向上につなげた実践事例を教育工学的見地から分析し、より多くの教員が自らの授業で ICT 活用を実践するための授業デザインの研究が必要であるとする。本課題研究では、ICT 活用事例の調査と分析、ICT 活用による学力向上の効果測定、ICT を活用した授業方略の研究など、広く授業実践に基づいた研究成果の発表を期待したい。

■K-5 教育サービスとしての e-Learning 導入の検討

コーディネータ：赤倉貴子（東京理科大学），金西計英（徳島大学），
田口真奈（メディア教育開発センター）

遠隔教育として注目を集めた e-Learning であるが，我が国では，シラバスの電子化や LMS の導入といった対面授業を補完する形での e-Learning が浸透してきている．e-Learning を教育サービスとしてとらえた場合，大学全体の IT 化についてのグランドデザインが必要不可欠である．e-Learning がさらなる展開を迎えるためには，より広い視点から e-Learning 導入の目的や，その効果についての議論が必要である．そこで，単なる e-Learning 導入の紹介や，活用事例の報告ではなく，機関全体で IT 化に取り組む事例から，実りある効果をどう導くかについての提案を募集する．

■K-6 教育工学関連製品を企業の開発者自身が点検・評価・検証する

コーディネータ：鈴木克明（熊本大学），井上義裕（日本電気），大久保 昇（内田洋行），
奥田 聡（富士通），栗山 健（学習研究社），野澤 敏夫（東京書籍）

自ら開発や企画を手がけた機器・システム・コンテンツ・サービス，イベントを含む支援事業等，これらが現場でいかに機能しているかの点検評価検証研究を募集する．アイデアが製品となって市場に投入され，市場での競争と教育現場での利用を経て，さらにより製品へと改良が加えられる．そのような循環の促進を学会として考えたい．現場のニーズをどのように掴み，どのような効果を狙って開発し，また現場では意図するとおりに使われたかどうか，また，利用者の要望についてはその後どのように製品に反映してきたのか，このような点からの報告を特にお願いをする．発表から課題を抽出し製品開発や現場での運用研究に通じる議論の場を設けるので，企業関係者からの多くの応募を期待している．

3. 教育工学研究・実践研究の体系化に関する研究

■K-7 情報教育カリキュラムの再検討－新学習指導要領・情報モラル教育の重点化を受けて－

コーディネータ：久保田賢一（関西大学），中橋 雄（福山大学），
堀田龍也（メディア教育開発センター）

中央教育審議会の審議では，新しい時代の学校像が検討されてきた．これにより，学校の裁量が多くなり，外部評価が強化される．このような政策の中で，情報教育の面では，情報モラル教育に注目が集まっている．しかしながら，学校現場ではまだ情報教育に対して誤解や無理解があり，情報モラル教育を含む情報教育が十分に普及しているとは言い難い．そのことを踏まえ，新しい学習指導要領を射程に入れた情報教育のカリキュラムについて議論したい．実践研究および研究方法論の研究成果を通じて，政策と学校現場の間にあるギャップをどのように埋めていくか提案する発表を募集する．

■K-8 教員の ICT 活用指導力を高める養成・研修と実践

コーディネータ：新地辰朗（宮崎大学），東原義訓（信州大学）

ICT を効果的に活用する指導力を高めるためには，基準の策定，その基準に対応した教員養成，教員研修，そして教育実践が望まれる．実際に，2006 年度末文部科学省より「全ての教員を対象とした教員の ICT 活用指導力のチェックリスト（全 18 項）」が公表され，さらに管理職用の基準策定も予定されている．このような動向を踏まえ，ICT 活用指導力の基準の在り方，具体的項目，その活用方法，研修プログラム，基準の活用による効果，諸外国との比較など，ICT 活用指導力に関わる様々な研究や実践について情報交換し，教員の ICT 活用指導力を高める養成・研修と実践について議論を深める．

(3) 一般研究

一般研究発表は以下のテーマのセッションで行われます。セッションは申込みの状況に応じて統合・分割などの調整を行うことがあります。なお、「その他」を選んだ場合は、分野及び想定されるセッション名を記述していただくことになります。

なお、今大会の一般研究発表については、口頭発表とポスター発表のどちらかを発表者が選べることになりました。ポスター発表のセッションは、より深い議論の場を提供するために、口頭発表と同時間帯に並行して開催されるものです。ただし、ポスター発表者は、発表時間帯にポスター前で、説明と討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育 I (情報活用能力の育成等) (3) 情報教育 II (教科指導等) (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 認知モデルと知的学習支援システム (17) インターネットを利用した授業実践 (18) 教育メディア (19) e-Learning (システム) (20) e-Learning (運用・評価) (21) 協調学習と協調作業 (22) その他

(4) International Session

従来の English Session を名称変更したセッションです。発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。このような趣旨をご理解いただき、このセッションに奮ってご応募いただきたいと思います。なお、発表は一般研究発表 1~4 のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

◆発表時間について

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

[課題研究] 課題研究の趣旨説明 10 分 研究発表各 15 分 総合討論 1 時間程度

[一般研究] <口頭発表>発表 15 分 質疑応答 5 分 <ポスター発表>1 セッション（約 3 時間）の間、
掲示し、説明や討論に従事することになります。

[International Session] 発表 15 分 質疑応答 5 分

4. 大会までのスケジュール

6 月 21 日（木）課題研究発表申込書・プロポーザル（2~4 ページ）提出締切

7 月 5 日（木）課題研究採否決定通知

7 月 19 日（木）課題研究・一般研究・International Session の参加費事前送金締切（郵便振込の場合）

7 月 26 日（木）課題研究発表原稿（2 又は 4 ページ）提出及び参加費事前送金締切

一般研究発表/International Session 申込書・原稿（2 ページ）提出及び参加費事前送金締切。なお、**17:00 が最終締切時刻**となります。

8 月 16 日（木）発表者以外参加費等事前送金期限（郵便振り込みの場合）（それ以降は送金しない）

8 月 23 日（木）発表者以外参加費等事前送金期限（それ以降は送金しない）

5. 大会への発表申し込み等

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、前回大会より、[発表者]には、事前に、大会参加費を送金していただくことになりました。ご注意ください。発表原稿送付時に、JSET ホームページ大会関係部分にて指定される「発表申し込み」の登録をしていただきますので、その登録時に年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。
- ・大会企画委員会が特に発表を依頼した場合は、この限りではありません。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込みすることができます。
- ・連名者の発表件数には、制限はありません。
- ・類似な内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込みすることはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込み場合も同様です。
- ・[課題研究]は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込みことができますが、既に[一般研究]にも発表を申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月21日(木) 17:00までに提出してください。
- ・ページ数はA4版2~4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、JSET ホームページの大会関係部分でお伝えします。
- ・課題研究に申し込まれた発表は、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月5日(木)までに申込者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

課題研究に採択された場合、最終原稿を下記により提出してください。

- ・A4サイズで2又は4ページ。原稿用紙は送付しません。JSET ホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・JSET ホームページ大会関係部分から、7月26日(木) 17:00までに、最終原稿のファイルを送信していただきます。
- ・発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究及び International Session の発表申し込み方法

- ・7月26日(木) 17:00までに、JSET ホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出してください。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究と International Session の原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。
- ・原稿用紙は送付しません。JSET ホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成してください。
- ・発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承ください。

(5) CD-ROMの作成について

今大会の論文集から、冊子体のものに加えて、CD-ROM (pdf ファイル) を作成することになりましたので、ご了承下さい。

また、大会原稿の著作権を学会にいただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

(6) 発表取り消しについて

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、学会事務局（五反田）office-g@jset.gr.jp までご連絡ください。その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません（学会から提供する発表リストから削除します）。なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取り消しとなりますので、ご注意ください。

6. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、PCを投影できる設備（プロジェクタ）が利用可能です。発表会場にはインターネットにアクセスできる環境は用意されていません。OHPあるいはOHCの利用を希望なされる場合は、事前に下記実行委員会にお知らせください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。また、PCから音声を出す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意ください。

ポスター発表の会場では、幅1メートル・高さ2メートル程度のポスター掲示のパネルを用意します。また、ポスター発表5件に1台の割合でデモンストレーション用のプロジェクタを用意します。プロジェクタを利用する人はパソコンを持ち込みの上、同一会場内の利用者と時間調整してお使いください。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了してください。

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学部向後千春研究室気付

日本教育工学会第23回全国大会 実行委員会事務局 宛

E-mailでの問い合わせ先： taikai2007@list.waseda.jp

7. 企業の展示について

大会期間中、企業による展示も行います。出展を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (taikai2007tenji@jset.gr.jp) へお問い合わせください。

8. 大会への参加申し込み

参加申し込みは、JSETホームページでのクレジットカード決済によって、あるいは後日 JSET ニューズレターに同封します郵便振替用紙をご利用になり、参加費のお支払いをお済ませください。それによって受付とさせていただきます。その期限は、下記のとおりです。

(1) 発表者は、7月26日(木)17:00までに、参加費の支払いを完了してください。この期限までに参加費及び2007年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取り消しとなりますので、ご注意ください。

(2) 発表者以外の一般参加者は、8月23日(木)までに、参加費のお支払いをお済ませください。それ以降は、大会当日、会場にて、「当日参加」として受け付けます。

大会参加費 事前 3,000円(一般) 2,000円(本学会学生会員)

*発表者は7月26日(木)まで、一般参加者は8月23日(木)まで。郵便振替の場合は、必ずそれぞれの締切日の1週間前までにご送金ください。

当日 4,000円(一般) 3,000円(本学会学生会員)

論文集代 6,000円 今大会からCD-ROM付きになります。

懇親会費 5,000円(予定)

論文集送料 1,000円(参加しない場合)

なお、8月23日(木)以降に割引の事前参加費を送金された場合は、大会当日参加費との差額(1,000円)を大会受付でお支払いいただきます。

また、送金後の変更に伴う返金は原則としていたしませんので、ご了承ください。

①ただし、8月23日（木）までの変更については、返金は致しませんが、次年度の年会費に振り替えることができます。学会事務局（世田谷）office-s@jset.gr.jp まで連絡ください。非会員の場合は入会をしていただくことになります。この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として返金できないことをご了解ください。

②大会参加費と論文集代を送金され、8月23日（木）までに学会事務局に連絡がなく大会に参加されなかった場合には、大会終了後に論文集をお送りします（送料は参加費で補填いたします）。ただし、その差額は返金できません。

9. 宿泊案内について

大会企画委員会では旋致・紹介は致しません。参加者ご自身で早めに予約してください。

10. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせください。

日本教育工学会 大会企画委員会問い合わせ用アドレス：taikai2007@jset.gr.jp

大会企画委員会 委員長：木原俊行（大阪教育大）

副委員長：向後千春（早稲田大） 鈴木克明（熊本大）

幹事：金西計英（徳島大） 室田真男（東京工業大）

委員：

赤倉貴子（東京理科大） 池田 満（北陸先端科学技術大）

石川 真（上越教育大） 井上義裕（日本電気） 大久保 昇（内田洋行）

奥田 聡（富士通） 久保田賢一（関西大） 栗山 健（学習研究社）

小泉力一（尚美学園大） 新地辰朗（宮崎大） 高井尚一郎（内田洋行）

高橋 純（富山大） 田口真奈（メディア教育開発センター）

中橋 雄（福山大） 中原 淳（東京大） 中山 実（東京工業大）

野澤敏夫（東京書籍） 野嶋栄一郎（早稲田大） 林 敏浩（香川大）

平嶋 宗（広島大） 東原義訓（信州大）

堀田龍也（メディア教育開発センター） 松居辰則（早稲田大）

アドバイザー：

赤堀侃司（東京工業大） 清水康敬（メディア教育開発センター）

永野和男（聖心女子大） 矢野米雄（徳島大） 山西潤一（富山大）

大会実行委員会

野嶋栄一郎（委員長）、永岡慶三（副委員長）、向後千春（事務局）、浅田匡、加藤尚吾、菊池英明、岸俊行、金群、スコット・ダグラス、西村昭治、保崎則雄、松居辰則、三尾忠男、森田裕介（以上、早稲田大）

研究会の開催

テーマ 地域教育力と情報教育

研究会
2005



●日 時：2007年5月19日(土)

●会 場：北星学園大学 A館3階 〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

●担当：武田亘明(北星学園大学短期大学部) takeda@hokusei.ac.jp TEL011-891-2751-2402

●交通案内：■札幌駅・札幌市中心部から→地下鉄南北線「真駒内」方面大通駅から東西線新さっぽろ方面行に乗換，大谷地駅下車1番出口(約15分)・自動車等利用の場合は南郷通り大谷地神社信号を右折約200m. ■新千歳空港から→新千歳空港連絡バス(北都交通・中央バス)で「地下鉄大谷地駅直行便」で大谷地駅下車(約35分)JR札幌・小樽方面行き乗車し新札幌駅で地下鉄東西線に乗換，大谷地駅下車1番出口(32分)*詳しくは，<http://www.ipc.hokusei.ac.jp/~z00333/chizu/chizu.html>を参照下さい。

研究会は当日受付にて同研究会の報告集(1,000円)をご購入いただければ，一般の方でも参加可能です。

●プログラム： 発表時間：発表1件につき25分(発表20分程度，質疑5分程度)の持ち時間です。

開会挨拶・諸連絡：10:00-10:10

午前の部 A会場(A305教室) B会場(A300教室) C会場(A321教室) 10:10-11:30

(A1) 高等教育における基礎的情報教育へのグループ学習システム導入の試み，金子大輔(北星学園大学)，登り口泰久・小松川浩(千歳科学技術大学)

(A2) 授業設計手続きのモデル化に向けて，三橋功一(北海道教育大学函館校)

(A3) 教授活動ゲームによる学ぶ意欲を喚起する授業・教材・教授スキルの共有と普及支援，松田稔樹・石井奈津子(東京工業大学) 玉田和恵(東京経営短期大学) 三田純義(群馬大学)

(B1) 情報社会で生きる7つの力を測定する尺度の作成，小川亮(富山大学)，武田亘明(北星学園大学短期大学部)，山西潤一(富山大学)

(B2) 「自ら学ぶ楽しさを発見する体育の授業の試み」～デジタルカメラや携帯情報端末を活用し児童が楽しく課題解決に取り組む授業を目指して～，竹内一裕・新岡房子・黒坂俊介(夕張市立幌南小学校)，太田弘美・新谷洋介(北海道高等聾学校)，尾崎廉(札幌市立平岡中学校)，長谷川元洋(金城学院大学)

(B3) 情報教育ミドルリーダーのコンピテンシーに関する研究，藤村裕一(鳴門教育大学)，中川一史(メディア教育開発センター)，木原俊行(大阪教育大学)

(C1) 児童によるWeb情報発信を促進するWeb作成支援とその効果，小山史己(三重県津市立西が丘小学校)，下村勉・須曾野仁志(三重大学)

(C2) すべての教師が指導に参加する情報モラル教育の実践-新聞記事データベースの活用と道徳，国語の学習との連携，尾崎廉(札幌市立平岡中学校)，長谷川元洋(金城学院大学)

(C3) 校内での年間指導計画作成に焦点を当てた情報モラル教育研修講座の実施と評価，玉田和恵(東京経営短期大学)

-----昼食(11:30~12:40)-----

午後第一部 A会場(A305教室) B会場(A300教室) C会場(A321教室) 12:40-14:00

(A4) 大学生による紙芝居・ビデオカメラ・デジタルの手法を用いたストーリーテリングの制作，須曾野仁志(三重大学教育学部)，下村勉(三重大学)，織田揮準(皇學館大学)，大野恵理(北アリゾナ大学)

(A5) 短期大学における情報教育カリキュラムの開発と評価，中島千恵子(星美学園短期大学)

(A6) デジタルペンを利用したレポート作成支援に関する予備的検討，中嶋輝明(北星学園大学文学部)，土井純也・川西雪也・小松川浩(千歳科学技術大学)

(B4) インターネットによる教育情報の配信に興味を持つ教員の情報収集の特性，石塚丈晴(静岡大学工学部)，堀田龍也(メディア教育開発センター)，和田真理・笹田森(内田洋行)

(B5) お互いに学びあい，伝え合う力を育む授業づくり～ICTを活用した授業の工夫をめざして～，太田弘美(北海道高等聾学校)，武田亘明(北星学園大短期大学部)，小川亮(富山大学)，新谷洋介(北海道高等聾学校)，尾崎廉(札幌市立平岡中学校)，黒坂俊介(夕張市立幌南小学校)

(B6) 国際交流学習支援プログラムにおける教師支援マニュアルの内容分析，笹尾真剛(関西大学大学院総合情報学研究科)，稲垣忠(東北学院大学)

(C4) 職業意識の向上を目的とした問題解決型学習による履修支援システム，風間吉之(筑波大学大学院図書館情報メディア研究科)，杉本重雄(筑波大学)

(C5) 学校・PTA・地域が連携した安全安心教育，小賀聡(株式会社ラプト・北星学園大学短期大学部)

(C6) 障がいを持っている生徒が，地域へ飛び出すための支援，新谷洋介(北海道高等聾学校)，武田亘明(北星学園大学短期大学部)

-----休憩(14:00~14:10)-----

午後第二部 A会場(A305教室) B会場(A300教室) C会場(A321教室) 14:10-15:30

(A7) 北海道における黒板PJの取り組み，佐々木東(岩見沢市立北村小学校)，竹内一裕(深川市立一巳小学校)，新岡房子(夕張市立幌南小学校)，尾崎廉(札幌市立平岡中学校)，黒坂俊介(夕張市立幌南小学校)，新谷洋介(北海道高等聾学校)，太田弘美(北海道高等聾学校生活情報科)

(A8) 教授活動ゲームの数学教育用対話インタフェースの拡張，内野智仁・松田稔樹(東京工業大学大学院社会理工学研究科)

(B7) 教室での教科指導におけるICT活用の効果，高橋純(富山大学)，堀田龍也(メディア教育開発センター)，山西潤一(富山大学)

(B8)「教員のICT活用指導力チェックリスト」による実態把握の試み,堀田龍也(メディア教育開発センター),高橋純(富山大学人間発達科学部),山本朋弘(熊本県立教育センター),横山隆光(羽島市立羽島中学校),小泉カー(尚美学園大学芸術情報学部),清水康敬(メディア教育開発センター)

(B9)教室のICT環境に関する日英比較,野中陽一(和歌山大学教育学部),堀田龍也(メディア教育開発センター),Avril M. Loveless(University of Brighton)

(C7)インフォーマルな教員研究会の持続可能な支援について,渡邊景子(いわき明星大学)

(C8)学校の社会的価値定義について～学校広報と地域教育力の位置づけを問う～,豊福晋平(国際大学),宮内盛一(斜里町立峰浜小学校)

(C9)『地域情報ブログ』で見えた,保護者の地域教育力,宮内盛一(斜里町立峰浜小学校),豊福晋平(国際大学)

-----休憩(15:30~15:50)-----

特別講演 A会場(A305教室) 15:50-16:50

「誰の? どこで? なぜ? 知識社会におけるCreativity - Creativityとデジタルツールの日英からの展望 -」
講師: Avril Loveless教授(ブライトン大学教育学部)

英国の教育では,基礎学力の向上と併せてCreativityの育成は大きな課題となっている。Loveless氏は,デジタル・テクノロジーにはCreativityの育成を助長するいくつかの特徴があると指摘し,ICT活用によるCreativity育成についての研究を精力的に進めている。今回は,日英の教育の違いを踏まえた上で,Creativity育成の展望について,お話しいただく予定である。(通訳:岸磨貴子:関西大学大学院総合情報学研究科)

閉会挨拶・諸連絡 16:50-17:00

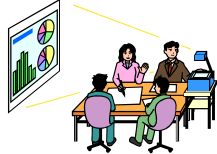
研究報告集年間購読のお勧め



予約価格は郵送料込みで3,500円です(当日売りは割高になります)。年間5冊,合計500ページ前後で,各研究会平均16件程度(平成17年度実績)の研究発表が掲載されます。詳しくは,学会本部事務局までお問い合わせください。

【学会本部事務局】〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル TEL/FAX:03-5740-9505
E-mail: office@jset.gr.jp

研究会の発表募集



テーマ 教育とメディア/一般

●日 時: 2007年7月7日(土)

●会 場: 新潟医療福祉大学(新潟市島見町1398)

●開催担当: 後藤康志(新潟医療福祉大学) ●申込締切: 2007年5月14日(月)

●原稿提出: 2007年6月7日(木)

● 募集内容:

子どもを巡るメディアの環境は大きく変化しています。メディアを活用した教育の改善という視点からは,e-learningや携帯電話などのツールを活用した教育や,教師の力量形成のためにメディアを活用すると言った研究が積み重ねられています。メディアそのものを対象とした実践では,メディアリテラシーや映像視聴能力に関する研究の蓄積が進んでいます。本研究会では,こうした教育とメディアに関わる研究発表を幅広く募集します。

● 応募方法:

研究会Web「発表申し込みフォーム」よりお申し込みください。

● 申し込み締切: 2007年5月14日(月)

締切後,申し込まれた方宛に発表の採択結果を執筆要項とともに電子メールにて連絡いたします。

●原稿提出期限: 2007年6月7日(木)必着(厳守!)をお願いいたします。執筆要項に記載された宛先にお送りください。なお,PDF形式での原稿の電子的な提出を受け付けます。提出先は,研究会事務局(jset-submit@nime.ac.jp)です。電子メールに添付して送ってください。

研究会委員会からのお知らせ

研究会に関するご意見・ご希望,研究会テーマ・企画などありましたらお気軽に研究会までお寄せ下さい。

■ (研究会全般,研究会Web Page,研究会発表の申込,変更等,原稿執筆)に関するお問い合わせ

⇒ 研究会幹事 jset-branch@nime.ac.jp

■ (年間購読,原稿提出)に関するお問い合わせ

⇒ 学会本部事務局 office@jset.gr.jp

研究会の報告

2007年3月3日,兵庫県尼崎市にある園田学園女子大学において,「授業実践とメディア活用」というテーマで研究会を開催しました。3月は他の学会の研究会とも重なりが多く,どの程度の発表が集まるか心配でしたが,27件の発表が寄せられ,充実したプログラムとなりました。幼稚園から大学に至るすべての校種に関する発表があり,教育工学の研究分野の幅広さを実感しました。研究内容は,教材やプログラム開発をはじめ,各種調査研究,高校教科「情報」に関する実践研究など多彩でしたが,研究会ならではの深い議論ができました。年度末のお忙しい時期に,ご登壇,ご参加いただきました皆様に感謝申し上げます。(担当:園田学園女子大学 堀田博史)



日本質的心理学会研究交流委員会と企画委員会との共催セミナー

「質的研究法は教育研究をどう変えるか」報告

日本質的心理学会研究交流委員会と日本教育工学会企画委員会、学習工学研究会との共催による、「質的研究法は教育研究をどう変えるか」と題したセミナーが、2007年2月24日（土）、愛知県の金城学院大学にて開催された。国立大学入試前日の開催にも関わらず、案内開始とともに申し込みが殺到し、申し込み締め切り前に受付を締め切らねばならぬ盛況ぶりであった。最終的な参加人数は219名であり、うち92名が教育工学会会員であった。参加者は、大学教員以外に、初等・中等学校教員や大学院生、医師など多岐にわたっていた。

セミナーは午前11時に開始され、尾見康博日本質的心理学会研究交流委員会委員長ならびに村川雅弘日本教育工学会企画委員会委員長の開会挨拶のあと、名古屋大学大学院大谷尚氏による「質的研究とは何か—そのパラダイム、パラダイス、パラノイア—」と題された講演があった。申し込み時に参加者から収集した「セミナーへの期待・質問」を踏まえた講演内容となっており、「なぜ質的研究を行うのか」「そもそも質的研究とはどのような研究なのか」「何をもちて質的研究というのか」といった基本的な問いかけに始まり、質的研究の系譜、質的研究実施のための具体的な手続きの流れ、理論化のためのコーディングの方法、分析の過程で気をつけるべき点などが、質的研究を長年実施してきた研究者ならではの視点で1時間に渡って具体的に語られた。

昼食をはさみ、参加者に事前にメール配布された具体的なインタビューデータを用いてのワークショップ「質的研究手法による記録(データ)の分析」が行われた。

大谷氏によってデータコーディングの手法が丁寧に解説された後、参加者はコンピュータが準備された別教室に移動して、3、4名のグループでデータのコーディング、ストーリーラインの読み解きまでを体験した。名古屋大学大学院の大谷尚・柴田好章・坂本将暢の3氏が机間巡視を行い、具体的な質問への回答にあたった。30分程度の作業の後、元の教室に戻り、いくつかのグループが実際に行ったコーディング結果を用いながらの解説が行われた。



最後に青山学院大学佐伯胖氏による『質的研究—「科学的」というトラウマから逃れられたのか』と題する講演が行われた。「行動主義」が批判され「認知科学」が誕生した「革命」の時代をアメリカで過ごした体験から、当時なぜ日本では「革命」が起こらなかったのかが「関数」主義に支配された科学観という点から批判的に述べられ、「関数」主義を脱し専門領域を超えて「面白い」研究を目指した「認知科学」誕生当時の研究者の思いが語られた。最後に研究方法論が「量的」か「質的」かといった二分法による「質的研究」の捉え方を批判し、関係論的科学としての可能性が語られた。

ミクロな質的研究の具体的な方法からマクロな質的研究の位置づけに対する議論までが網羅された密度の濃いセミナーであり、事後アンケートにおいても回答者99名の全員が「参加して良かった」と回答するなど満足度の高い企画であった。

教育工学会企画委員会が他学会との共催によるセミナーを実施したのは初めてのことであったが、セミナー終了後に大学食堂で開催された懇親会にも多数の参加があり、通常のエデュケーション学会の研究会や学会とは異なるメンバーとの交流が促進され、大変刺激的であった。(文責：田口真奈)

2006 年度 産学協同セミナー報告

3月3日(土)、「産学協同セミナー：教育システム・コンテンツ開発 アイデアマーケット」が、東京ファッションタウンビル904研修室で開催され、総勢31名が参加した。このアイデアマーケットでは、公募で選ばれた8人の研究者が、開発した教育システムやコンテンツを売り込み、産業界で活躍する審査員が商品化可能性の視点から審査した。発表タイトルと発表者についてはニューズレター149号のp.8をご参照ください。審査員として井上義裕(NEC)、芳賀敬輔(富士電機ITソリューション株式会社)、畠田浩史(内田洋行)、青木栄太(内田洋行)、前田朝生(シャープシステムプロダクト株式会社)の5名をお願いした。

まず、会場全体に対しての宣伝タイムが設けられ、各発表者が1分以内で呼び込み口上を述べ、魅力をアピールした。次いで、発表者は各テーブルに分かれて、教育システム・コンテンツの詳細についてデモンストレーションを行った。審査員や聴講者は次々と発表者を回り、審査していった。

審査の結果、第1位は「同期型CSCLシステム「Kneading Board」」、第2位は「幼児の物語行為支援システム」、第3位は「相互評価端末「Sounding Board」」であった。審査結果発表後、審査員からの講評が行われた。審査員は、マーケットのニーズや規模、競合商品の有無、デザイン性など「商品として売れるかどうか」という視点から評価した旨のコメントを述べた。また、商品化を望むときには発表前に企業に持ち込んだほうがよい、教員一人に一台のコンピュータが整備される点がこれからのマーケットになるだろうとのアドバイスもいただいた。研究の視点とは異なることを改めて認識させられる刺激的で示唆に富んだセミナーであった。末尾ながら、本セミナーを盛り上げてくださった審査員の先生方、発表者の方々、聴講者の方々に感謝いたします。



(文責：永田智子・鈴木栄幸)

日本教育工学会 2007年夏の合宿研究会(第一報) テーマ「次世代の教室のICT環境と学力向上を考える」

IT新改革戦略等により学校へのICT環境の整備が進んでいます。そこで、次世代の教室のICT環境はどのようにしたらよいか、各国事情・国内調査の結果のみならず、学力向上、問題解決能力や想像力の育成に向けた教育方法と関連させて議論します。また、ICT活用による学力向上の効果や、学校現場への普及方法を検討していきます。本夏の合宿研究会では、ICT活用や学力向上に関心のある多くの実践者、研究者の方々の参加をお待ちしております。また、将来教師や研究者を目指している学生の方々の参加も歓迎します。

■日時 2007年7月28日(土)13:30～29日(日)12:00

■場所 富山大学黒田講堂会議室

■日程

7月28日(土)「次世代の教室のICT環境を考える」

○各国事情・国内調査の結果から日本が目指していくべき教室の次のICT環境を考える。

・基調講演：山西潤一(富山大学)

・パネルディスカッション：木原俊行(司会・大阪教育大学)・野中陽一(和歌山大学)・黒田卓(富山大学)・毛利靖(つくば市立一の宮小学校)

7月29日(日)「ICT活用と学力向上」の普及を考える

○ICT活用の学習指導には効果があると各種調査は示す。効果のある活用方法の普及を検討する。

・パネルディスカッション：南部昌敏(司会・上越教育大学)・村川雅弘(鳴門教育大学)・中川一史(メディア教育開発センター)・豊田充崇(和歌山大学)

・小講演：堀田龍也(メディア教育開発センター)

■お問い合わせ先：夏の合宿担当 高橋純(富山大学) takahasi@edu.u-toyama.ac.jp
参加申し込みや詳細は学会HPをご覧ください。

第 11 期第 15 回理事会議事録

日 時：平成 19 年 1 月 27 日（土）14:40～16:30

場 所：キャンパスイノベーションセンター 806 会議室

出 席：赤堀侃司会長，永野和男副会長，矢野米雄副会長，山西潤一副会長，
池田 満，大谷 尚，木原俊行，黒上晴夫，向後千春，近藤 勲，三宮真智子，澤本和子，
鈴木克明，永岡慶三，中山 実，野嶋栄一郎，南部昌敏，村川雅弘，事務局：長谷川，服部

1. 第 11 期第 14 回理事会議事録を資料のとおり承認した。

2. 会員の移動について承認した。

(1) 新入会員 11 名(正会員 6 名，学生会員 3 名，准会員 2 名)

(2) 退会会員 22 名(正会員 9 名，学生会員 9 名，准会員 4 名)

(3) 会員種別変更 8 名(正会員へ 8 名)

2006 年 3 月で連絡がなく年会費未納の学生会員を，2007 年 3 月 31 日付けで，除籍することを承認した。

3. 各種委員会報告について

(1) 編集委員会： 矢野副編集長から資料 3 に基づいて編集進捗状況が説明された。

(2) 研究会委員会： 黒上委員長から，研究会の開催状況，開催計画について報告があった。

(3) 企画委員会：

・村川委員長から別添資料に基づいて，日本質的心理学会との共催セミナー，産学協同セミナーを開催した報告があった。

・2007 年 6 月開催のシンポジウムについて案を承認した。

(4) 大会企画委員会：

・木原委員長から，ニューズレターで広報した大会のお知らせ(第一報)について報告があった。

・向後理事(大会実行委員会)から，企業展示について説明があり，赤堀会長から協力依頼があった。

(5) 選挙管理委員会：

大谷委員長から理事候補の第 2 段投票結果について，資料 5 に基づいて報告があり，これを認めた。

(6) 将来構想委員会：

山西副会長から，日中研究推進フォーラムを 2007 年 6 月 19～20 日に開催する計画が報告された。

(7) 事務・総括：

永野副会長から，各委員会の規程を明確にするために，共通する原案を基に委員会で明確化するように依頼があった。

(8) 広報委員会：

・資料 5 に基づいて，ニューズレター 150 号および 151 号の台割案が示され，ページ数の構成について検討した。

・学会 Web サイトの更新について確認し，次回理事会までに更新することを確認した。

4. その他

(1) 年度末処理について：

資料 6 に基づいて，各種委員会から会計報告，事業報告，事業計画について事務局宛てに提出いただくことにした。

(2) 協賛名義の使用について承認した。

国際会議 LKR-2008(東京工業大学 COE21「大規模知識資源の体系化と活用基盤構築」)

(3) 本学会への調査依頼報告

・「学協会の機能強化方策検討のための学術団体調査」についての御協力をお願い(日本学術会議)

・「学協会の会議開催予定・発行刊行物」に関する調査へのご協力をお願い((独立法人) 科学技術振興機構)

・平成 18 年度電子情報図書館サービス連絡会議の開催について (国立情報学研究所)

(4) 本学会への広報を確認した。

(5) 今後の理事会日程について

第 11 期第 16 回理事会：平成 19 年 5 月 12 日(土)14:40～16:30

以上

日中教育工学研究推進フォーラムの御案内

華南師範大学李教授・徐教授を中心とする中国教育工学研究グループとの「日中教育工学研究推進フォーラム」の開催を計画しています。

日時は、平成19年6月19日(火)・20日(水)、場所は大阪です。

現在詳細を打合せ中です。プログラム等詳細が決定次第、学会ホームページで案内いたします。問い合わせ等は、富山大学の山西(学会国際担当:yamanisi@edu.u-toyama.ac.jp)まで。

新入会員

(2007年1月23日～2007年3月19日)

■ 正 会 員 6名

平澤林太郎(上越市立春日小学校)
八重樫理人(芝浦工業大学)
武田秀敏(今治明德短期大学)
榊本輝樹(千葉県立衛生短期大学)
小林久美子
木幡敬史(慶應義塾大学大学院)

■ 学 生 会 員 3名

長瀬綾乃(産業能率大学大学院)
渡辺美紀(東京工業大学大学院)
太田史香(早稲田大学大学院)

■ 准 会 員 2名

雨宮宏(千葉県総合教育センター)
鈴木智之

学会日誌

5月12日(土) 理事会(CIC)

5月19日(土) 研究会「地域教育力と情報教育」(北星学園大学)

6月16日(土) 第23回通常総会, シンポジウム, 理事・評議員会(東京工業大学)

7月7日(土) 研究会「教育メディア」(新潟医療福祉大学)

7月28日(土)～29日(日) 夏の合宿研究会(富山大学)

9月22日(土)～24日(月) 第23回全国大会(早稲田大学)

10月20日(土) 研究会「デジタルコンテンツの教育活用と授業デザイン」(同志社女子大)

12月22日(土) 研究会「高等教育とeラーニング」(熊本大)

2008年

3月1日(土) 研究会「日本語教育と教育工学」(名古屋大)

5月17日(土) 研究会「テーマ未定」(岩手大)

国際会議の案内

ED-MEDIA 2007 <http://www.aace.org/conf/edmedia/>

ICALT 2007 <http://www.ask.itl.gr/icalt/2007/>

E-Learn 2007 <http://www.aace.org/conf/eLearn/>

ICCE 2007 <http://www.icce2007.info/>

SITE 2008 <http://site.aace.org/conf/>

お問い合わせ先(Eメールアドレス)

- ◆ 論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会(editor@jset.gr.jp)
- ◆ 研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局(jset-branch@nime.ac.jp)
- ◆ 全国大会の開催についてのお問い合わせ・・・大会企画委員会(taikai2007@jset.gr.jp)
- ◆ ニュースレター編集に関するお問い合わせ・・・広報委員会(kouhou@jset.gr.jp)
- ◆ その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局(office@jset.gr.jp)

広報委員会

編集長:清水康敬, 広報委員長:堀田龍也, 委員:山西潤一, 石塚丈晴, 高橋 純
(独)メディア教育開発センター堀田研究室 E-mail: kouhou@jset.gr.jp

日本教育工学会ニュースレター No.150

2007年05月09日

発行人 赤堀 侃司

発行所 日本教育工学会事務局

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-13-7 マルキビル

TEL / FAX: 03-5740-9505 E-mail: office@jset.gr.jp

<http://www.jset.gr.jp/>

郵便振替 00180-2-539055